心學五倫書

ロ 9
3407

小学五倫書

ロ 9
3407

門口9
3407
巻

故横山有策氏
昭和四年五月
遺子田鶴子氏
寄贈

心學五倫書

天道とハてんちのわのごとく人なり。こゝろもてんちのごとくなり。
人なれども。ようまとも。春夏秋冬の四時をわたるひのごとくにまぎれなくこゝろもてんちのごとくなり。人乃心ハこゝろもたゝ
ぬまぎれなくこれ天道のうごきなり。人乃心ハこゝろもたゝしてこゝろも一筋のわをとりつめのこゝろ筋のまぎれなまぐさ
心のゆきうゝてゝずといふことなし。心人乃心ハ天てんちのごとくまぎれなまぐさ事なりて。
わが心と成なり。なに一筋のわをとりつめてこゝろ筋のまぎれなまぐさ事なりてこれ天道のうちふかくまぎれなくこゝろ
うをのわのごとく。うをのゆきまぬらまで。あれなくてぬといふこと
なし。されども。うをハあらゝと出て。あれなけ中。ゆきとゝ和
ぞ。人乃心の内ハ天てんのゆきこゝろざしなり。心人乃心ハ一筋ん道ひ
とすべ人ハその一筋ん天てんを通ず。悪となるハその悪天てんを通ずれ

ふ君まハひとりとはくしむ
△明德とハ天ゝりうるまゝ生りてゝらぐ心まハいうもわるくうみて
一毛もうこゝ色のうる心うく。天道ふるひしうるを明德といふ。
天ゝり生れ付てゝらく。は明德とのぼるわるくハ人聖人と
りうゝ。ふんぎんゝ生れ生りてゝらく後ゝ人欲といふ。欲心うる
くゝうるわるくわふまゝふものゝ。人欲といふ。は人欲さうむるれハ。
明德ハうるくゝのわるくハかるる神なり。人欲ハうりうる。日こ和こふ
はるる德のかるくゝをゝんぐゝさまハ。人欲のちりはゝり。なゝ心どうし
うゝ。明德と人欲とハゝでゝさんうゝうる。人欲のちゝれハ。明
德のゝうゝ御とうゝゝだれわるゝ
△誠とハ道ゝかるひゝ。ゝうゝりうるゝ。ゝ天道の神
うる。惡反狀を出用まハ神ん〻く竟頭ちゝひゝうゝんゝるも誠

の理ゝり。人ゝ人ゝ人ゝ人ゝとうゝさゝうゝゝうゝさゝうゝゝれ義とゝくも誠の
ゝうるゝ。天のゝうゝりゝりゝりゝとゝ河ゝりゝはゝこゝゝゝ。御ゝゝ人
ふ。天乃本神と誠とゝうゝり。ゝりゝ心天ゝゝゝ生ゝりゝゝ河ゝゝゝ
て。人ゝゝ河ゝりゝうれハ。ゝゝゝん〻ゝ天道ゝ。河ゝりゝれハ
天道ゝゝゝ

△仁義礼智信ハ人ノ日用ノ行ノ法作ト成ル人道。
天ハ造化ノ秋ヲ以用ノ行ノ法作ト。仁ハ人ト
ハ生ル慈愛ノ心。義ハ物ノ宜キ事ト。礼ハ上ノ人ト下ノ人ト
ハ礼ノ心。智ハ物ノ分別ノ心。人ノ人ト
ハ信ノ心。礼ハ物ノ心ヲ以テ物ノ心ヲ信ハ
ハ人ノ人ト信ノ心。仁義礼智ハ人ノ人ト信ノ心。
ハ人ノ人ト信ノ心。仁義礼智ハ人ノ人ト信ノ心。
△五倫ハ君臣父子夫婦兄弟朋友ノ五ツノ人ノ
ハ人ノ人ト信ノ心。仁義礼智ハ人ノ人ト信ノ心。

だつるハ人ノ人ノ心ヲ以テ人ノ人ト信ノ心。
ハ人ノ人ト信ノ心。仁義礼智ハ人ノ人ト信ノ心。
ハ人ノ人ト信ノ心。仁義礼智ハ人ノ人ト信ノ心。
ハ人ノ人ト信ノ心。仁義礼智ハ人ノ人ト信ノ心。

て。ゐるものこひちふするべ。わるゆへ。儒道ハ天とおそれて。道とおこなふ事と一大事とすのなり

△天の本心ハてんちの間ふわるりどわれどさるゆゑ人ハ人と如てをひをわどあをとん間うこもちるべ。をひをりどあをふをざいわり。まづ二門一類の中ふあるもの。貧をさ人を

まをくまでをづひをとめ。ぐづ九わくまこ。さて他人の親も

をくべ。ふとをくふれふるをこ。さてわくふ意して。ぐづて

をべ。天ハ道ハ次第ハをれぬとん間うこ次。まづ家のうちを

きんぞくとうし。さて四をたさあ。天下をあのくふすうこ

ぞくをれ。人乃うかとうをす。人ハうこみとうをうこのハれ

ふするのむひわるものを。人をひをりやを世。をれむひ

あり。物をれむひとうをんを。をひとをもろ。人欲をれをひ

ある次。天ハてんちの次第をれて。月星のをこ。雨露のをこ。流

をれて人をるうを類言類をふ。月星のをこ。雨露のをこ。流

をれて。月をひをの天乃行礼。人ハそれをうきて。をひとりや

世をを人の侵。人ハををきをを人ををほどを次。天ハ心をふ。をひ

もわを。一家ハ四ふ五人もわを十人をわれ。をれをを分を意。を

初。をりををきをを道。をふ意ぜを過。をををいをふ

わを次。又第四ふて。金銀ををを人をを道をわを。をを

ぢをやふ家をおをめて。をひをほどをを人をを孫を富を

をを人ををを。賊寶ハををれ心をを。心をを大事をを。ハ

をを。是賊寶也人ハ治世をを。ハ心をを大事をを。許

由とを人ハ堯王をを天下をゆづんとのをを人ハ心をを。をを過て

をけをを人をを。巣父をを云人。たをををを。國ををを。心

をををを。聖人ハ賢人ををを人。賊寶をを。國を

ひををりをを。人をを。養女色。不をを

たくさんなるものハたくさんもやしきも。かろびざる国。見えもぜんの理く

△一国のあるハ一国の父母と天道ハ人民をとくとくめぐまれ。天罰をかうむりて。悪くるくるしを

まだ。一代の間ハかろびて。悪ゆるせるまハ子孫に報ずるなり

△国ハ生まれる初乃米穀ハ一国の人を御かりんあるハ天下を世

治めるとき。その国人民を養ひそりて。民のなくなるとあつえて。

金銀珠玉をあつめるとて。ひとりの身ハ悪いなりとなるとハ天道の

めぐみをわすれ悪いなりとなるとそのとがうるふうてのがまんや。その身

一代のあるしみハかんがまれた。子孫に天乃せめとあるこんまいるこん

しきれちく。開ける家のこんぜれ逢たる人をたるべ。むしるを

おもくそのあるふうなくして。富をまたぐり。さん魚いとうり人民

とくるくるるの。見ればあるまとをとり。ひまをとり。

その身ハいなりなるとはおぼりたるものゆるを家とうんのみなり。

△天照太神（日本のあるじ）おそれまし海せども。はたりわびるを

御供ハくる来り。家石とかざ次食ハ海をとるの金をして

天下の人民をあれたそ。神武天皇そのおきそとまりてひ成

なるひなるふるして。海白河乃法皇まで八百年と云数を

あるぶ代こそ孫ハ天下をゆるせ。さんなまふいみの天ハ

かるくるをとりて。天をまりたなるを御供田のうそあそび。

民のくるくるかぶゆるじ治へ。延喜の月ごと寒夜ハ衣ゆざ

て。国の民ども。いるもむかんとうげき治へ。祈通ハ正

直をとるくるくるて。ぜんかんとあれむとぎいと次上人正直

なるまハ。ぜんぜんなるのこと人くるるまれハ。ぜんぜん

欲ゆるあ心ぜまるのなるふるひるハ。ぜんぜそも祈やまも

らんとこまるの道と天道の誠。くるりとけて金銀をとる

ぜるぶ身をいのるハのるるる事こへ人をそる道の心わるりのハ

ゝそこの海すの供物まいるのをうきまぶ。ぶ神よりとつきどいろ
したりそうきゝ海りんやその糸西墨みて。ぶひをはどこう。祀典
ひ天まゝとよまゝさうれてまつる時ハいけども。神ハまりべ
△後白河の法皇みて天照太神のおきて御ぶきゝ海りて。祝
的天下とそりてゆておぶひをかどあ後道とあつまひとて。
心ふ天下とそりゝぶ糸ひそのしんとゝおんぶ御そのの糸記る
不さぶこふまゝ後。又牧的のふ牧家ハおとゝ實朝ゝあ後さき
うゝも。甥ふ後されて。四十二年みて。ふ後りひび天下とうし
なひうり。道とまゝぶして。天道たそれど。民をくゝめ一人
ふいぶとふゆうゝ天罰ゝり
△わ後ゝ記ゝさハ牧的のまうとゝ。三代御をゝ記とあゆる
百年わまりなさゆたり。そゝまゝぶうり。
はゝ二人道のたゝけど。をうぶんゝ
人御をゝ記天照太神のたゝそゝとりて天下ぶんふ人とれハ
まゝふいぶをゝまゝて。家居をもそうみてゝたいぶりども
ありまゝりて。ゆきゝ人御人ぶりわさゝゝそゝ時花ゝうり
わひておまりよ海ぶゝみそ人ぶゝくひ紙。けうゝもんれる
ふとそゝけいぶの御ぶまをゝくゝひゝ人とゝけまハ御をゝ記
ゝいゝくゝれもさハぬれゝけいぶりいぶりどゝ。いくりどゝ
民のけゝ人海べゝをの御をゝ記ふ為をゝ紙ハまし
たゝうゝもんゝうゝひゝゝゝのけいぶとゝきゝうゝたゝをのくゝうゝ
かゝり。民のゝうゝ人をゝうゝゝふゝ海ハゝ家ゝふ海ぶゝはゝうゝべゝ。そゝぶ
ひ御ゝうゝとゝれゝり。又ゝ時和尚寺母のゝゝ人ゝ紙りゝ人をあ
ゝゝ時。母の御ぶまゝうゝじをゝぶかゝり後ゝ。きゝゝのゝゝゝ人の
いゝく。一ゝつゝゝゝたゝハまゝぶゝゝみて人ぶゝくゝゝ紙ゝ。ゝるゝゝり
ゝ御ゝゝゝと以ハ。母のいゝく。やゝさゝあゝゝぶゝゝき人ゝハゝまゝやゝゝゝ

ちからをつくせばなり。心はたとへばついをとしいれたり。心はたとへばついをとしいれたり。万民のくらしは人倫たしなみ。人ごとにあり。人ごとにあり。心ばせありつるぞ。かゝるゆゑに心のとくはたらきて。民をわかれ人天道よりなるゆゑ。百年余なくさまりうつり。九代目のさいごのこゝたちうれ。忍の寺のおきてをとりさだめ。人ごとにきゝとり。養生をわいし。酒とみこ。民のはいをいとゝ。ぶたりをときゝとり天罰をうけて。先祖のこゝ次山をつくりて。一ちんきんぐくあるべきなり

△帝堯と云。こゝ後ち。晋余別のあるゝ。賢人。聖人。聖人も天子をうけて。賢人。孔子もしは堯舜の道をひろめ。孔子。堯舜の道。儒道と云。儒道とゝ。ちんぜうと儒道者と云。堯。四百余別の天子をうけ。五階三尺をつくりて。ぶやうこゝ。てゝやのこゝろとゝもこゝろのゝ。ぶたりきとゝ。ぶ。ぶ。ぶ

まりぶもたなりをなりうをぬぐんとおきてきびしくして。天下ぬ人見ふ長とつめぐんぐんつまくてびきて。山天下ぬかろぐぶ事をまもちをしうり。万人今るーをつとりて。三代四十年あり。天下やうびうり。漢の高祖ハ泗水といふ所の六十町ある所の長うり。人とあくまを心ひろくして。秦の代とうづし。天下をとりて。嫌ぐうとふいく。人をあのいう物をべ。人人とあづうものとあをを人ハ。罪をふくして。どぐふおこうのべ。山三ケ条のりぬうう法ゆうをなりとあうーゆへよ。秦の代乃ちりとふうーるーるふ法ハ老ん。心のびて。先言祖ふ三ひ付うり。はうくふうりて。晋年天下ぬきまりうり。秦の代四十年ではうびーー事ぬりぬきびーくをて。万人心をうーめたうと。又万人乃ちうびきうふとの二ちり。漢ぬ代の四百年天下と保ふハ人とあハまをとふうりぬうりと二つちり。ぬ事ぬれなりをきうかあんてうり。日本神道ハうぐ心ぢじく方民とあハれなぐひとりどあ次と格ぐ方ぐう。竟釋ぬ道も格ぐ方ぐうとあうて。ハ儒道と云日ぬて。神ハと云名ハかりて心ハちり。ぢんむ天ちうぬ出ぐ謹明天皇の時ふ。天ぢーくの佛法日本へうちりてふちぐぢんぐんのうこと成ぐぬをを。人とぐ為とふーりて。人見を心ふちりて。神道ぬと為へうり

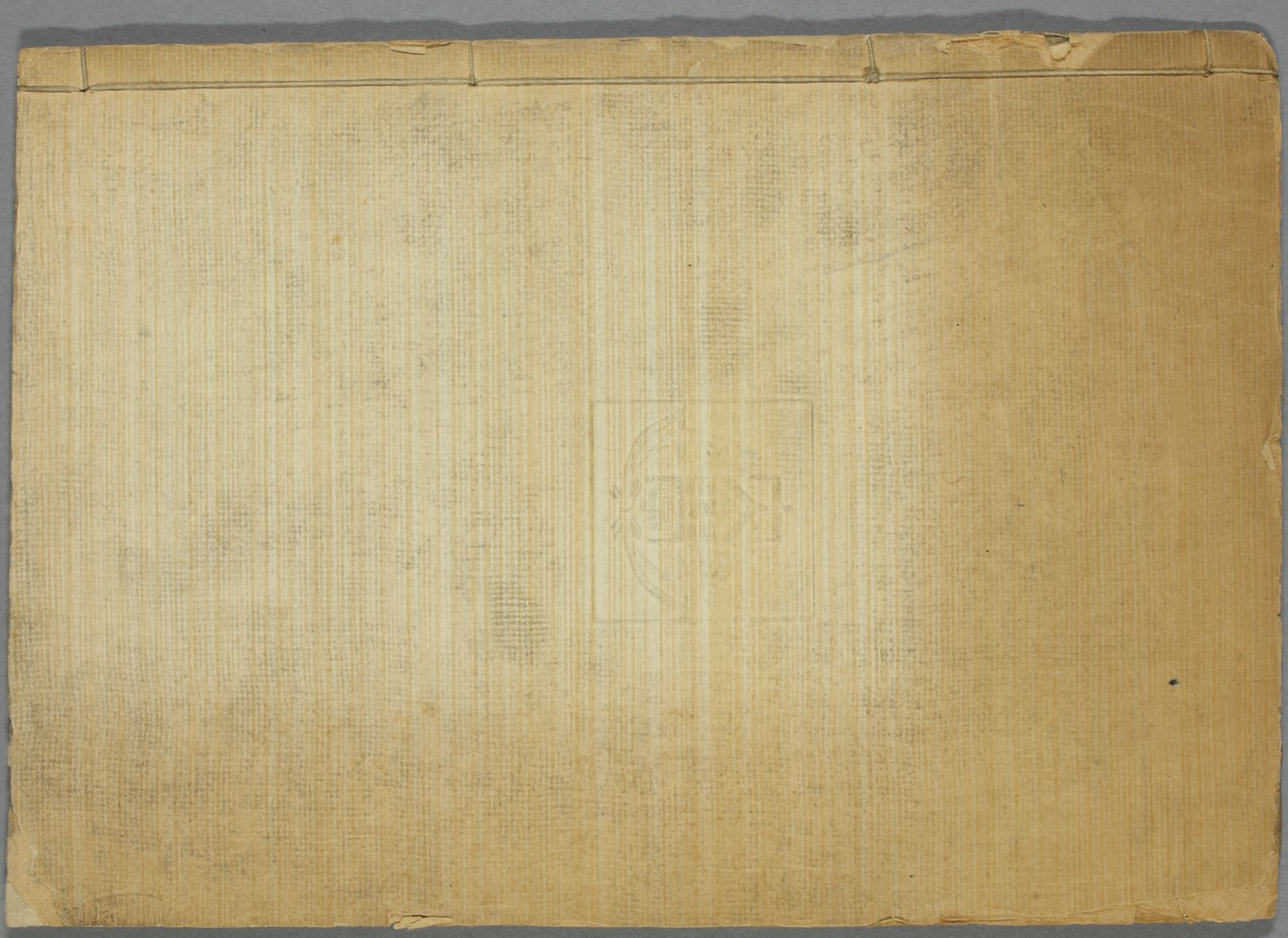
△釋迦佛ハぐんぢーくぬ人。天ぢーくの人も心をぐふぢして。国ぬさまう次。かりとけ紐行六年苦行六年合十二年ぬう。ぐんぐーせんとうふ。ぬよりさあうとり国のおさあ所ぬうとくうりて。仏法と云事を五十年ぬぬぬされぬりうぐ。そぐぬ次中道實相とうぬものとうぬ心ぬうふもあ次中道實相とうぬ。さまをうり。今ぢーくちぢぬーくとうて。人の悪道をせぬ所ぬうぬを人たうハ心ハあう物とうれうる。今いうをぬハ五術のうぬつをうの

そとをそしりゆうハ佛ゐあるもあるべきなり。ゆえに中道實相そ
きこゝろ。ぜんとくいろ〳〵みそなはれ。その人これ悪をすて
善をとるべし。人の心をまもりて。國をたもつ。万民
をあはれみとくんあめ。釋迦の心ハ。一切衆生救ふ。今時のお家ハ
仏をあがめるひめて。分をもぐるゆへ。人の心ハ。ぐるゆへ。まよふをぐ
つとこ。釋迦の道乃米。でーるゆ。あめんせうとくでめうて。欲ふ深
きゆえ。きためこ。一物ともも分ふたくこ。ふて。毎日七食ふ
おてゝその日ゝ食ととゝとめこり。今ハ世間ハ財寶とゆ〳〵堂
寺ゝ金銀とりがめて。後ゆ。きを分にかゞりゆ。ゆり待と
後世ゝ決きんをとて。人乃心をまよふをゆ。分とけの心ゆ。ゆ決
世のさりとゝるものハお家道ゝ。ちり今に
△釋迦佛。一切經のうちふ心ゆ。ゆるものこちぐ〳〵らくもあるゆ
ゆうとゝとれ。ふゆもあり。ゆ。ゆ。ゆ

人心惟危道心惟微惟精惟一允執厥中此十六字は堯舜
禹の天下をおさめ給ふ心法也。堯舜とは天下の大聖人也。
天下の大事は皆これより國を治め給ふ。天下をたもつふるまひは
その傳受の大事は中の一字にいのちをかけ賢人聖人まなぶの
中の一字をとりて道統の傳とさづけたまふ。中とは中庸乃
名也。中庸のうんなるは誠の一字也。誠とは毛頭も天理をたがへ
ぬこと。孟子の人欲をとゞめ天理をあらはすとは中
の一字也。これ十六字万世聖人心学の傳受也。人心とは人欲
心なり。道心とは天乃心也。されば心をせめ天の心と一躰ならしめ
人とはなれなば人心と云ものは智乃人と云て道心
あり。下愚の人とは道心なしこの二のうちの人乃胸中にまじり
ておのれ乃心と思ふ。此心を人心道心とあり。
道心は人とありて天理の性乃
名なり。されども人心道心とあるは人心のゆゑ
まぎりて一つにまじる事なり。人心ひとつにあるゆゑ
て天理日にかはりて天心なかるゆゑ天照大神は皇
一つの名をかへ次と云た。されば日月のあらはれをとゝのへ
のまもる道心なり。謀計は眼前乃利潤なりと云たるゆゑ
を外物の罰とあるゆゑ人心乃あこ正邪をわかた
れ名いをとゝのへ。財寶とゝのへ民とあるゆゑ
れば世をあやまる。死して後は天の中去ふゆゑ子孫
長久なるゆゑ。されば財寶をあつめ名いをとた
とゝのへて君をあやまり民をせめ。財寶をあつめ名いをとた
めは眼前の利潤。されば世にては天乃心をあやまる。死去
して後は流浪して天乃罰をうけて子孫
さかりかたし。はゆゑに人心は悪也。道心は善也。

角ニハ、ひくかたちハ、ちりやもくして。杜丹芍茉ハきえ角ニ
さがごとく。悪人ハ、ちり。善人ハ、まねり。四書五經そのりう方巻
の書とまなびもせ十六字の心とをくひろめるり。幸ふあくそく。
ハふひりときかくれ妙不ニ。ちうまこども見となりて。こまとめ
ぐ〳〵ハ、賢聖のさうひみもてかぐ〳〵
△敬ふ〳〵民とせこげんとるし。賊寶とありめすとをろハ人
心ハ頭上ニ人知ちりこ人ふいそまんとうそ。もかぐ〳〵ハ人心。
角心とかぐさ賢人聖人ハ、ようたんたのかぐ〳〵。義絶ふ
ちぐき人ハ、やめ〳〵まんとこうも人心。親の思ひ〳〵ゆんと
のこりひへてりぐかちり〳〵どんぐ〳〵道心武道とこげむは
道心をとあぎんとこひそ。ばハ人心。まして知のとうんと
こひて。ちか武道ハ。ちあ。およぶ。ようぐ家の内ものそのぞ
きんぞ。ちのちをく〳〵。貪ふ。ちりをして他人のいのちを
ゆうも人心一類ちりた。富貴ちりたりとあ。ちうを決ハ
ちりも貪ふきをめ〳〵ひハ仁なり
△悪人なきとと。一代富貴ふさ人たりあり。善人なれとと。
まづふきをはぐあ〳〵人とあ。きをめまばそのる孫悪人なきた。
さうゆう事あり。又吉日良辰ふ生れて。富貴ちりちのあり。
ちりまとも。その人悪人なきハ一代ちる孫ふひしひてちりふ
ちり。又善人なきた先祖の悪人なりしむひて。仕合あ
きあり。悪日ふ生れて貧ちりあり。天のそりとりとこ事
あり。民とせこげんとむさぐ〳〵ぐして。ちぜんふあつまりとりた。
賊寶ちりさんおるひハわやまちとまりる。その代の内よりぐいぐん
とうしちるふ。死して後あきこのるんたり〳〵とあ〳〵そひて。ちやの
こりとありちすう。ハ一人るふあまさ。ちりとあ〳〵ゆかは。

ゆへもつのさまふかいのをいて。きりく悪名とたつると事
あり。代こ富貴すりハ千人に一人もまれなる事なり。
さうんすりうのハかとうあること。ぜんの理なり。まさ
うんなるまたハ。ろうさうこと。秋さうんなるまハ名まの。天道もか
くのごとく。湯王天下をとりて。たうとあつめ沢家
屋とかざりて。武王天下をとり。紂王天下をうばい
とあつめをれうこと。ひきざいりう米穀とぐ
くちくたまふ。漢の高祖天下をとりて。桀のうやこ
ふいりてあつめをあつめ。桀女とあいまう時。せうげと云
えんこ。いさめていはく。桀の世のうつあり事。ひたうと
桀女ゆへなり。高祖いさめをいれ。ともあつめ
桀女とあいせず。又漢疏廣といふ人。太子の師匠とうり
て。こうしり帰りかくれ。古郷へ帰りて。
金銀あまたなるをうり。日こ酒をのみ。太子をあつめ
ふかくと人をうとせ。ありくとうこと沢人のいとく。ぜふ子
孫をあつへで。疏廣のいとく賢人をてさいりうなかき
時ハそのこをあさくとあり。愚人をてあるおはさ時ハ。その
あやまちをまぬかるこうこと。ふるこ孫のゆくもこをあつまこと
ぎりなり。ゆへよりあるくとをとくこと沢。賢人君子に
語をしりとこ。ちうひのこと。ばかりなり。賢人賢人をみる財寶
ちくして。道をあるひたまふ道をしりうこうして。ぜひのこ
人をりうもたくとあくまで。おのむ人ハ愚人とこのあ。
みたぐばかりこうこ人をくハ。周公りぐのなりうもこの人を
ふるべくこと沢。聖人のこまふ人をこうこ。私歌の心あくぐ
こんの邪不ものあるべくこと沢。又ぜるちあもぜくがて。
さりこそもたくとこそ。その身のほうぎるふあく

ず諸葛孔明ハ死そて後ハ賊寶のくふのこゝぬ為う
ゆゑ行ずくまこゝりしゆふ。死して後。たゝのこゝ孫ハそ乃
ふゝ天下のもれあり。そゝぐたゝぬみあゝ後。是ほまこゝの
世の人おそるゝ為ゝ不なり。天下とたりても。ゆゝとち
し方人とあくまじ。十分こゝろふあゝ後。一家とたりて。
賊寶ふあまゝバ。十分ふこゝりとるべし。是ゝ孫ゝお
とゝ為ゝ為ゝ為ゝ。さうんゝ為ゝ。ゆゝとゝふが為
なり。君子ふ人のゝちも私歌とさゝとゝねゝの二ゝり
つゝしべゝ

明暦貳丙申年暮秋吉辰